

2002年9月20日(金)～10月30日(水)

寄贈品コーナー

## けものとのくらし

期間：10月30日まで



18の大学で博物館学を学ぶ19人の学生たちが、9月11日から7日間の博物館実習を行いました。実習は朝の朝礼から始まり、1日中、担当の学芸員について、博物館の調査活動、資料整理、普及事業の実習を行いました。その中で、直接市民の方たちの活動に接し、地域の人たちと共に歩む博物館の実像にふれたり、博物館の持つ問題などの見聞をしました。この実習の総仕上げが、寄贈品コーナーの展示です。実習生が総力を傾けて取り組んだ展示をご覧ください。また、実習に参加した学生の中から3名に実習の感想を書いてもらいました。

### 寄贈品コーナー展示 全体タイトル けものとのくらし

目的 “けもの”と人々がどのような関係を持って暮らしてきたのかを、縄文時代の貝塚からみたけもの利用、庶民の暮らしと信仰、現代のけもの状況という3つのコーナーに分けて明らかにする。

#### ○掘り出されたけものとの関係

五嶺ヶ台貝塚の出土物を用いて、縄文時代における人々とけものとのつながりを、狩猟の対象とされたけもの、道具として利用されたけものという面からとらえる。

#### ○身近になったけもの

人々の生活の中に、実はけもの文化は身近な存在である。今回は特にキツネに焦点を当て、信仰の中に入り込んだ、けもの姿を取り上げる。

#### ○けものとの共存

現代における県内のけもの状況を、レッドデータブックから把握して、将来どうあるべきかを、個々に考えてもらう。